

わたしが担当します

リハビリテーション科に 最後のワンピースがそろいました

2022年4月にリハビリテーション科に着任しました。専門医機構リハビリテーション科専門医です。

リハビリテーション科言語聴覚士8人、作業療法士21人、理学療法士29人の大所帯のチームですが、リハビリテーション医療はリハビリテーション科常勤医がいて初めて完全なチーム医療の体を成すので、22年度ようやくその体制が整いました。

私の経歴は長すぎてここには収まりません。これまで常勤で勤務は横浜市立大学医学部病院、横浜市立港湾病院、神奈川リハビリテーション病院、横浜市立市民病院、神奈川県立がんセンターなど8病院。非常勤では川崎市更生相談所、横浜南部地域療育センター、横須賀共済病院、済生会横浜市南部病院、神奈川県立こども医療センターなど十数か所を数えます。この経験を当院リハビリテーション科の発展に役立てたい。『救急からリハビリテーションまでシームレスな医療』が売りの当院の顔となるように、リハビリテーション科の存在感を高めること、そして県内、国内にその実力を広く発信していくことが私の使命です。

当院の魅力は、レトロで懐かしくて温かい所でしょう。私は横浜隋一の繁華街だった伊勢崎町界隈で育ちましたので、夜にはネオンの看板にあかりがともって、歌などが聞こえてくる下町の雰囲気は、ふるさとに戻ったような気分です。患者さんも笑顔、医療職も一般職員も、ボランティアもみんな笑顔、そんな「Smile Hospital」が私の理想の病院です。学生時代から憧れであった民医連を代表する当院でぜひ実現したいと思います。



リハビリテーション科部長
水落和也医師

1982年横浜市立大学卒

日本専門医機構リハビリテーション科専門医
日本リハビリテーション医学会指導医
認定臨床医
日本義肢装具学会義肢装具専門医



広く開放的なリハビリテーション室



リハビリテーション科のスタッフに囲まれて

当院では、2023年度方針で『リポジショニング』を掲げ、ポストコロナ時代の新しい川崎協同病院のあり方を病院あげて方針化していくこととしました。リポジショニングでは、臨床研修病院として急性期医療への対応をこれまで以上に強めていくことと、民医連の『無差別・平等』『差額室料をいただかない』という理念を堅持しつつも持続可能性のある経営体質を作っていくことを目指しています。そのためのKPIは新規入院患者増・救急車応需数増・入院期間の短縮です。今年度下期は、そのためのハード面の整備を行っていくことにしています。

まずは、それまで離れていて便利さに欠けていた1階の救急室及び感染症対応の隔離エリアと中央処置室を一体化して、感染対応と救急対応の利便性を向上し、救急から入院への動線をスムーズにしました。

さらに、当院の6階にある血液浄化センターを同法人の協同ふじさきクリニックに移設し、空いたスペースと元々あった6階病棟を合わせてフロア全体を新しい病棟に改装します。現在はひとつの病棟で内科系・外科系が混在していた一般急性期病棟を、内科系と外科系を分けていくことで、急性期対応を整理強化していくことができます。

また障害者病棟だった4階病棟を院内で3つ目の地域包括ケア病棟にします。6床で運営していた多床室を4床にして患者の療養環境を改善しつつ、地域包括ケア病棟にすることで、地域医療の最前線にいる在宅分野を支えている医療機関や介護福祉施設からの入院加療のご相談に対して、これまで以上に対応できるようになります。

感染症対策に強い病院にしつつ同時に通常医療も両立できる病院を職員一丸となって作り上げていきます。



解体工事中の6階病棟



STAFFもうひとつの顔

一期一会の旋律体験

患者サポートセンター地域連携課
栗山弘

私は患者サポートセンターで事務として地域連携業務に携わっています。音楽が好きで、とりわけジャズをよく聴きます。きっかけはジョン・コルトレーンの『至上の愛』というアルバムでした。演奏者それぞれが思いつきで演奏しているように聴こえるのに、なぜ間髪入れず入れ代り立ち代り演奏できるのか知りたくて興味が湧きました。

一般的にジャズは、最初にバンド全員でテーマ(主旋律)を演奏した後、テーマのコードに則して一人ずつ順番にアドリブを回し、最後に再び全員でテーマを演奏して終わります。



あちこちのライブハウスへ通ううち自分でも演奏してみたくなり、軽い気持ちでサックスを始めました。しかし、アドリブ演奏は、ジャズ独特のリズムやコード、フレージング、数多くの音階などを自在に操れなければならない、今では半ば諦めモードで地味にスケール練習をする日々です。

数年前に公開された米映画『ラ・ラ・ランド』ではジャズが扱われていました。劇中で描かれている通り、ジャズは日本でも雰囲気作りのBGMとしか思われていない気がします。しかし、映画の台詞を借りれば、ジャズは演奏者が自分の思い通りに曲を解釈し、音をぶつけ合いながら歩み寄る、刺激的な音楽です。

一度たりと同じ演奏のないジャズを、ぜひみなさんにもライブで体験していただきたいです。

